

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900532		
法人名	特定非営利活動法人 こうえい会		
事業所名	グループホーム こうえい館		
所在地	北海道旭川市豊岡8条8丁目1-3		
自己評価作成日	平成23年3月3日	評価結果市町村受理日	平成23年4月13日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900532&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ研修、実践者研修、リーダー研修等、運営者は職員に勉強する機会を多く提供しています。又、事業所内でも勉強会や話し合いに機会を多く持ち、認知症ケアの力の向上に力を注ぎ、入居者様の幸せを目指しています。こうえい館は現在身体的に低下してしまった方より、お元気に動かれるアルツハイマー型の方が多く、10人乗りの車両に乗り、あちらこちらへドライブしています。外の活動は天候が重要ですので、予定した外出もありますが、朝、皆さんの気分と天候で突然お出掛けが決まってしまう事もあります。家庭的でごくごく普通の生活を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<安全な環境づくり>
特定非営利活動法人が運営する1ユニットの改築型グループホームだが、2階部分を1階に移設すると共にトイレの位置変更、事務室及びキッチンを広げ、ウッドデッキを幅広く全面改装し、消防法では対象外の面積にも拘わらずスプリンクラー、火災通報装置を設置して安全な環境づくりに取り組んでいる。
<事業所の力を活かした地域貢献>
事業所の持つ力を活かして、実践者研修やリーダー研修、リスクマネジメント等の研修の場の提供や講師を務め地域のケアサービスの質の向上に寄与していると共に地域の中学校のインターンシップの受け入れ、近隣の人達の介護の困りごとや生活相談、町内会の役員を引き受ける等地域の貢献に取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	1. ほぼ全ての家族と
		○ 2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	3. たまに
		4. ほとんどない	○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の詳細な内容について運営者から説明を受けて話し合い、暗記し、ケアの基本と位置付けてケアプランを考え、ケアの提供中も理念に添っているか振り返りながら取り組んでいる。	「ありのままを知り受け入れる」「その人らしく生きる」「喜びの実現」を基本理念とし、職員で共有し、振り返りながらその実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会費を支払い町内会に入会しており、総会や会議には、運営者や管理者が出席している。今年度は班長を担い、次年度も役員を行う予定がある。	町内会役員を引き受け、清掃事業や資源回収等の事業への参加や中学校の体験学習の受け入れ、近隣小学校の運動会見物等を通じて地元の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方の入居を含めた生活相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的なケアの実際、防災への取り組み、市監査の報告等をお伝えし、参加者からは家族側の思いや苦労をお聞きしている。家族会や増改築祝に参加して頂き入居者様とも交流して頂いている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、市の監査報告やスプリンクラー・火災通報装置の設置等具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の集団指導に運営者、管理者が出席し、事業者内でも検討し職員にも伝えている。変更や疑問のある時は市担当者と話し合い、意思疎通を図っている。	市担当者や包括支援センターの研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止規定により職員にも勉強会等で周知を行っており、身体拘束は行っていない。昨年秋までは玄関施錠も行っていないが、認知症の進行により安全確保が困難になり現在は施錠している。散歩、買い物、ドライブ、外食等の外出を日常的に行っている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、内部研修会で管理者及び職員の共有が行われている。また、安全面に配慮しつつ、家族会等で話しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加で学ぶ機会を持っており、入居者様の日々の暮らしぶりや様子、身体や表情を観察し、虐待が見過ごされない様注意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の月1回の勉強会で学んだり、外部研修に参加したり理解を深めつつあるが、活用すべき事態は発生していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時、運営者と家族が話し合いの時間を持ち、十分な説明後、入居契約書を取り交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不快や不都合と感じている環境や対応、施設用品等について、運営者に相談し対応している。また、入居者様やご家族が意見等伝えやすい雰囲気作りにも気に掛けている。	家族会の開催や来訪時に意見や要望を聞く機会を設けている。また、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように、市町村等の受付窓口の啓発ポスター等を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見等、管理者が受けた場合、定期的な会議により、運営者に伝えられる機会がもうけられており、対処している。	毎月第3金曜日には、法人内の内部研修を継続的に実施し、職員の研修の機会の場の確保が行われていると共に職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士等への挑戦を勧め、勉強の場を提供し、資格取得による昇給もある。又、法人内で事例検討を行い認知症ケアの実践力向上を目指す等、やいがある職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は、スタッフ研修、実践者研修、リーダー研修等積極的に受講させ、人材育成に力を入れている。その内容を毎月第3金曜日の勉強会で報告し、学びを職員全員で共有出来る様にし、スキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修やリーダー研修の外部実習で話す機会があり、地域包括支援センター主催の研修やスタッフ研修でも情報交換や交流がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居からしばらくは、新しい環境に慣れて頂く事に特に気を付けている。心身の不調の出現の有無を観察し、本人の言葉を傾聴しながら職員の寄り添い時間を多く取っている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の発症や悪化、心身機能の低下等、ご家族はつらい思いを抱えてしまわれる事が多い為、その思いを受け止め、傾聴している。希望をお聞きしてケアプランを作成し、すぐにケアを実行している。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとってより良い支援は何なのかを、ご家族の方と相談し、話し合いを進める中で見つける様努めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生け花や庭花、畑の野菜等の世話、洗濯物干しやたたみ作業、ゴミすり、台拭き、食材選びや買い物、荷物持ち・出来る事をやりたい時に担って頂き、互いに助け合って和やかに過ごしている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来館の際には最近の様子を伝え、コミュニケーションを心掛けている。過去の生活や好みをご家族から聞き、ご本人の喜ぶ姿を見るための関わりを協力しながら考え、支えあっている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前親しく生き来のあった親戚や知人宅の個別訪問援助、年賀状や絵手紙、電話でのやり取り等、ご家族の了解を得て、関係が保てる様支援の工夫を行っている。	近隣の小・中学校の運動会見物やスーパーでの買い物、蕎麦やレストラン等での外食、知人や親戚宅への訪問支援等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好ましい人苦手な人がそれぞれあり、認知症状も加わって事実と違う思い込みや妄想もある中、互いの居室を訪れたり、庭作業や家事仕事等で共同作業を行っている。トラブルとストレスに配慮しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去(故人)された方のご家族で懐かしと思われ、度々来訪される方がいる。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から希望や好みを把握したり、直接質問したり、意向を出し易い雰囲気作りにも気を配っている。意志表現困難な方には、ご家族から聞いたり、表情、行動の推察で把握に努めている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で情報の共有が行われ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から十分な聞き取りを行い、入居前のサービス利用の際のケアマネや担当の方からも、サマリー、聞き取り、面談等で情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を観察し記録する事で、細かい変化も見逃さない様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子や認知症状等、報告や話し合いが行われている。ご本人にも生活の提案を出して希望を伺ったり、主治医や看護師からも助言頂いたりしている。ご家族からも希望を伺うが意見は少ない。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族、医師・看護師の意見を採りいれている。また、日々の業務や話し合い、評価を通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを個人記録日誌に付け、毎日ケアの内容を確認しながら、具体的な実践記録を書ける様にしている。記録からも1か月の評価をまとめ、介護計画を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生みだされるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人で所有している車両を利用し、受診、入退院の送迎や、花見、ドライブ、遠くの大型店への買い物等の外出支援を行っている。また、ご家族の状況により荷物運びを手伝った事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小中学校で催される、運動会や盆踊りに見学や参加に出掛けたり、近所のスーパーで買い物したり、居酒屋でランチや喫茶店でお茶のみしたり、喜んで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人と提携している医療機関を利用して往診を受けている方と、入居前からのかかりつけ医を利用されている方がおられ、希望や病状、状況に合わせた選択を行って頂いている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や通院の支援等で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ケアで法人と契約している看護師が週1回来て、職員から状態を伝え、日常の健康管理や医学的アドバイスを受ける事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者がご家族と共に医師から病状や治療計画等の説明を受けている。病棟看護師とも入退院時に話し合いや情報交換を行い、連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族より看取りケアの希望を、口頭ではあるが、希望されている方もおられる。病状の悪化の可能性ある方は、医師から延命の希望の有無の聞き取りの必要な方もおられる。十分話し合っていきたい。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を2年に1回くらい受けて、蘇生法技術や知識、手当ての方法等を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年2回行い、職員1人での安全な避難方法や、状況に応じた避難方法を話し合った。又、昨年設置された火災通報装置を使い、訓練を行っている。	面積等の条件で設置義務は無いが、スプリンクラー及び通報装置の設置が完了している。また、夜間を想定した避難訓練を年2回実施し、設備の定期点検も行われている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症による失敗や失行、失禁等は嘲笑や非難の言葉を受けてしまいがちである。他者の目に入らぬ様素早い対応や処理を心掛けている。	毎月開催する法人内の研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい、買いたい等の希望時、体調や状況を勘案し、過度にならない様配慮している。意思表示困難な方は、選ぶという形で日々の決定をして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外作業や買い物、散歩やドライブ、のんびりテレビ、カタログや雑誌を見る・・自由な時間が多い。気持ちに合わせて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の色やデザイン等、ご家族や本人の希望を伺いながら、外出援助で購入する事もある。髪染めやカットは希望者には、元美容師の職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望メニューを献立に入れたり、スーパーで食材選びを楽しんだり、苦手な食事は好みの物に代用したり、調理の下ごしらえ、下膳、台拭き・出来る力の発揮で生き生きされ、食欲も大変良い。	献立の栄養バランスやカロリーは、栄養士の助言を得て作られている。また、職員と一緒に調理の下ごしらえや食事の準備等楽しんで行えるよう検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、入居者さんの嗜好や希望を聞き立てている。水分・食事摂取表で摂取量の確認を行い、咀嚼、飲み込み状態によりトロミ、ミキサーを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	認知症により理解困難で義歯をなかなかはずして頂けない事もあるが、毎食後洗面台にお誘いし出来る力に合わせ、口腔ケア介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を付け、時間を見てのトイレ誘導、行動観察による尿意便意の推測を行っている。排泄物を手で触ったり、正しい処理が困難な方には、トイレに入らせて頂き汚染を未然に防ぐ清潔対処を行っている。	排泄表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって支援している。また、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や坐剤使用もあるが、野菜や芋類、乳製品、水分摂取にも配慮している。又、館内歩行や家事仕事、散歩、庭作業等、自然な働きかけにより、飲食と運動の両面から便秘予防を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には月木の週2回だが、入る気持ち強い時や発汗の多い日には、他の日も入浴やシャワー浴を介助している。しかし体力の低下や倦怠感により、拒否も多く、気分添ったお誘いを工夫している。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、拒否の強い利用者には、工夫した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間心地よい適度な活動や作業で、夜間の安眠を目指している。しかし加齢と共に体力的に落ちてきた方には、夜の睡眠の他にも昼間の休息をお勧めし、横になって休んで頂く事も増えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から発行される説明書により、薬の効能や注意事項について確認している。又、薬の増減後には、特変や状態変化の有無の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	館内の生け花や庭の野菜に世話して下さる方が自身の役割として積極的に担って下さっている。曲に合わせて懐メロや童謡を歌う方や、かるた、パズル等それぞれの楽しみがある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出たい気持ちのある時に散歩や買い物、ドライブ等に頻回に出ている。天気や気分で、予定外の外出も多い。個別外食や親戚宅訪問、ご家族と共にお孫ちゃんの運動会、お遊戯会へも出かけ、日常的に外出している。	日程を決めてしまわずに一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、ドライブ等戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、親戚宅訪問や小・中学校の運動会見物、蕎麦やレストランでの外食等普段は行けないような場所への支援もしている。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が無いという不安を持つ認知症の方のお気持ちを思いながら、事務所で小遣いの管理をしている。買物の楽しみは大きく、好きなおやつ、気に入った小物や衣服等を選び購入している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したい時、帰りたいと不安な時、ご家族の了解のもと、落ち着ける対応の一つとして電話かけを援助している。年賀状、絵手紙のやりとりも行われている。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い日にはカーテンで光の調節を行い、正月や節句飾りや皆さんの写真を貼る等居心地よい空間を目指している。認知症状により置き飾りの持ち去りを考慮し、壁や天井近くの取り付けも行っている。	昨年、トイレやキッチン、リビングや2階から1階への居室の移設等の改築をし、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、光の強さや室温、湿度に配慮している。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやソファで、一人で過ごしたり仲良い同士集まったりも可能。身体面や認知症状により飲食時の座席指定は出来ず、その都度の状況で、トラブルの無い組み合わせを調整している。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの家具や小物、家族の写真、使い慣れた道具等持ってこられ、住みよい環境にする為ご家族と相談しているが、身体面の変化や認知症の進行により、持ち物を減らしてしまう事も多い。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、身体機能に配慮した居室の工夫をしている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	離床困難、気力低下の方に、手すり付けで自力でポータブルトイレが可能になった。居室前の名札は認知症により居室を間違える方に見てもらって、「ここは○○さんのお部屋です」と伝え易く、納得して下さる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム こうえい館

作成日: 平成 23 年 4 月 4 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	27	勤務が休みの日の、入居者さんの健康状態や認知症状の変化等の把握が不十分で、職員間の情報の共有が困難な事がある。個人記録、スタッフ日誌、口頭で報告等があるが、数日間休みで勤務につくと伝達困難な状況がある。出勤時休み中の記録を全て読むのは時間がかかり過ぎる。	重要事項を職員全員で共有出来る様、報告や連絡の方法を考案し、相談を充分行い、介護計画に役立てたい。	重要で伝えるべき事が発生したらすぐにメモや記録を取る。連絡帳、スタッフ日誌、ケアノート、個人日誌と書くものが多いので、重要な事を見やすくまとめスムーズに伝わるように工夫する。	1年
2	54	認知症状の進行で周辺症状が出現し、居室内にあった物が減ってしまった。殺風景な部屋では、居心地よくないのではと思う。	のんびり落ち着ける空間作りを考えたい。	生命や健康に害や影響有るものは置けないが、見守りで失敗を防いだり、分かる力を出せるものもあるように思うので、職員、ご家族とで充分相談検討する。	1年
3	26	介護計画を考える上でご家族の意見や希望がなかなか出してくれない。	報告や質問の方法を工夫して、希望を表し易い雰囲気にした。	ご家族が来館の際は認知症状の現状を分かりやすくまとめて伝え、共に考える事が出来る様にする。職員間から出た情報の集約を常に行い、いつでも伝えられる様準備しておく。	1年
4	6	身体拘束はしていないが、玄関の施錠を行っている。昨年秋までは玄関に施錠は無かったが、身体の低下により排泄介助や水分摂取介助のケアが増えた方もいて、認知症状が進み、身体的に動ける方の頻繁な戸外援助が困難になってきた。	チームで協力しながら業務を手際よく勧められる様にして、外に出たい方の気分転換を行ったり、満足感ある暮らしにしたい。	役割分担について職員同士話し合い、外対応を可能にする。状況に応じた開錠で戸外に出、昼間の気分良い過ごし方と、夜間の心地よい睡眠を促す。	1年
5	40	認知症の進行により以前は料理の力を発揮できていた方も困難になってきている。衛生面の問題から厨房を施錠せざるを得ない事が多くなってしまった。	可能な家事仕事を考えて、入居者さんに喜びと充実感を持って頂きたい。	入居者さんの出来る力の発揮を重要と、職員に感じてもらい、出来る力の確認のため色々提案し、実行する。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。